



# 公益財団から見た “社会から応援される大学”とは?

公益財団法人 日本財団 経営企画広報部  
ソーシャルイノベーション推進チーム リーダー  
**高階 大輔**

たかしなだいすけ●2016年、日本財団に入会。コミュニケーション部にて主に広報・広告業務を担当した後、海洋事業部において海洋環境事業の支援業務などに従事。2023年6月より現職。

## ——日本財団が高等教育プロジェクトをスタートさせた背景を教えてください。

高等教育プロジェクトは、ZEN大学を運営する「学校法人日本財団ドワンゴ学園」の設立、ミネルバ大学の日本拠点設置などを総括した取り組みです。背景には、AIの台頭や社会構造の急速な変化に加え、子どもたちの特性に応じた教育へのニーズの高まりがあります。われわれは「日本の教育モデルは均質化されていないか」という懸念を持っていました。当財団が実施した「18歳意識調査」\*では、日本の若者は他国と比べて自己肯定感が乏しく、「自分は他人から必要とされている」「自分には人に誇れる個性がある」という設問に対する肯定回答割合が際立って低くなっています。こうした若者が前向きに生きられるように、ZEN大学やミネルバ大学への支援を通じ、既存の教育モデルに代わる“オルタナティブ”を提示していきたいと考えています。

## ——ZEN大学の運営やミネルバ大学の支援において、具体的にどのような役割を担っているのでしょうか。

ZEN大学に関しては、「奨学金」と「リアルな体験の提供」という2つの側面から支援を行っています。まず奨学金については、2つの制度を設けています。一つは、「日本財団ZEN大学奨学金」。これは、授業料全額に加え、入学検定料と入学金も免除するものです。国の修学支援新制度ではカバーしきれない層へ手を差し伸べるため、世帯年収の条件を「700万円未満」と高めの設定にし、経済的理由で学びを諦める若者を一人でも減らすことをめざしています。もう一つは、「特待奨学生支援制度」です。大学での学業にとどまらず、実社会で優れた活動を行う学生に対し、年間原則50万円を支給し、その挑戦を後押ししています。

「リアルな体験の提供」については、100を超える地域・企業連携プログラムを設けています。オンライン中心の大学だからこそ、実社会との接点を重視してのものです。当財団は長年培ってきたネットワークを生かし、学びのフィールドを提供しています。例えば、財団が運営・支援する「子ども第三の居場所」や「ハンセン病資

料館」、さらには全国の提携自治体などを紹介し、実践の場の創出につなげています。一方、ミネルバ大学に関しては、日本拠点の設立支援に加え、社会課題解決を軸とした学習プログラム「シビック・プロジェクト」を支援しています。このプロジェクトは世界各地で実施されていますが、日本においてはより深い探究を促すため、和歌山県田辺市「人口減少」「食文化とサステナビリティ」、兵庫県姫路市「人口減少」、岩手県陸前高田市・釜石市「防災・復旧・復興」「人口減少」の3つのフィールドへ学生を送り出し、地域特有の課題に挑む実践的な学びを提供しました。

## ——今後の展望について、お聞かせください。

当財団の支援のスタンスは、永続的に大学をサポートすることではなく、あくまで自走を促すことです。ZEN大学については、授業動画の制作といった初期投資こそ必要ですが、キャンパスの維持費などの固定費を抑えられる強みがあります。教育の質を高く保ちながら、運営を継続していくことは十分に可能であると考えています。将来的には卒業生や社会全体からの支援も受けながらの運営体制をめざしています。寄付が集まる大学には、母校を誇りに思う卒業生の存在があります。重要なのは社会で活躍する卒業生が母校を支えるという支援の好循環をつくること。ZEN大学も、理念に共感する方々や卒業生に支えられる、未来に開かれた「夢のある大学」へと育てていきたいです。

## ——大学のファンドレイジングのあり方については、どのようにお考えですか。

財団に寄付をしてくださる方々は、長いスパンで社会の未来を見据えています。実際に、ZEN大学の奨学金には当財団の「子どもサポート基金」を充てていますが、ここに寄せられるのは、「次世代を担う子どもたちの未来のために役立ててほしい」という長期的な視点に基づいた寄付です。既存の大学がこの思いに応じて助成を得るためには、表面的なアピールに終始してはいけません。「この大学が存在し、卒業生が羽ばたくことで、よりよい未来が開ける」という展望の提示が社会からの信頼を得る鍵になるのではないのでしょうか。

## 【図表】日本財団のサポートによるZEN大学の奨学金

奨学金の種類	主な条件／選考基準	支給金額
日本財団ZEN大学奨学金	<ul style="list-style-type: none"> <li>生計維持者／学生の学費・生活費を負担する者の収入合算が700万円未満</li> <li>生計維持者の収入証明・事業所得等、ZEN大学で学ぶ意欲を基に選考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業料を全額免除</li> <li>入学初年度は入学検定料および入学金も免除</li> </ul>
特待奨学生支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な実績のある学生</li> <li>研究や活動での活躍が期待できる学生</li> <li>応募書類、教職員による面談により選考</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間原則50万円、例外的に100万円を分割支給する</li> </ul>

\*ZEN大学資料を基にBetween編集部にて作成



人口減少に直面する姫路市・家島諸島の小学校で児童と給食を共にするミネルバ大学の学生たち。